

AMCoR

Asahikawa Medical University Repository <http://amcor.asahikawa-med.ac.jp/>

看護研究集録(2020.3) 令和元年度:68.

医療安全情報の活用について

北川 佳奈子, 今野 真都佳, 林 達哉, 岩田 達也

「医療安全情報の活用について」

旭川医科大学病院 医療安全管理部 ○北川佳奈子 今野真都佳 林達哉 岩田達也

【背景と目的】日本医療機能評価機構、PMDA等から様々な医療安全情報が届けられる。更に2017年からは、医療事故調査・支援センターからも医療事故再発防止に向けた提言第1号から第9号が示された。今回これらの医療安全情報を活用するための活動について報告する。

【取り組み】

医療安全情報が示された後、

- ①すみやかに院内へメール配信と印刷して各部署へ配布する。
- ②医療事故防止対策マニュアルの修正を検討する。
- ③マニュアルを修正後、各部署スタッフへ周知する。
- ④医療安全会議で医療安全情報を説明する。
- ⑤院内ラウンドで提言・取り組みを理解し実践しているかを複数回確認する。2018年度から医師の理解・実践確認を確認している。
- ⑥実践頻度が高い医療安全情報は、講演会を実施し再理解の場とする。
- ⑦医療安全情報の提言や取り組みを実践せずに発生した事例の有無を確認する。

【結果と考察】

第1号の提言は、穿刺時手技などは以前からマニュアルに掲載していたが、再検討した。中心静脈カテーテル抜去後の空気塞栓症については、抜針時の対応に関して複数回ラウンドして理解と実践状況を確認した。体位、圧迫時間、密封性の高いドレッシング材を使用することについては、実践している。このことは、患者が残念ながらカテーテルを自己抜針後の記録から正しく理解し実践したことがわかった。第2号の提言「患者参加による予防」は、入院時に「自ら行う肺血栓症の予防」を配布、院内にも掲示した。第3号の提言は、救急カートに症状の把握と対応が一目見てわかるお知らせを掲示した。アナフィラキシーショック時のアドレナリン注射に関しては、看護師が判断し注射することの是非を討議した。第4号の提言については、講演会を実施し理解を深めるとともに再度マニュアルを見直すこととした。第6号の提言は、以前から他の医療安全情報でも示されたことであるがラウンドにて臨床の実際を調査した。マニュアルへ一部記載していないことがあり追加とした。第9号の提言は、転倒転落予防行動は当院でも工夫して実施しており再検討した。

提言や取り組みを実施することが当然という状態とするには、マニュアルへの掲載、複数回の発信と実践状況を確認していくことである。